

## 報 告

## ソフォモアセミナーにおける BLOG 活用

## A Study on Groupware Tool by BLOG for the Sophomore Seminar

藤 本 孝一郎\*

FUJIMOTO, Ko-ichiro

あらまし 経済学部 of ソフォモアセミナーの授業運営に、ブログ (Blog) を採り入れ、グループ学習の新たな試みを実践した。web 上の Blog サービスを利用して授業サイトを形成し、セミナー員のホーム、クラスホーム間での協同作業や発表・コミュニケーションおよび授業全体の進行管理を効果的に進める手法である。

【キーワード】 演習授業，コラボレーション，Blog，教育実践システム

## はじめに

城西大学経済学部のソフォモアセミナーの演習授業を支援するために、Web上のBlogサービスを活用する方法を考案した。セミナー員の調査結果をBlogのリンクを通じて協同することにより、クラス全体の成果発表に利用する手法である。特に利便性の高い携帯電話によるアクセスが可能なシステムとした。

## 1. 演習授業と協同作業

## 1. 1 Blog

近年、国内のWWWサイトでBlogを目にすることが多くなった。BlogとはWeblogの略称である。一般に、個人の日々更新が容易な日記的なWebサイトの総称をいう。BlogにはWWW上での他ホームページやニュース等Webサイトへのリンクを設定されている。またトラックバックという容易にフィードバックできるリンクシステムが用意されており、話題ごとにコミュニティとして拡大できる性質を持っている。

ところで演習授業として40人規模でのクラス管理には、種々の工夫が必要である。また教授者にとって、特に参加者個人のテーマが異なる場合、クラス全体として成果をまとめる協同作業に様々な配慮が必要になる。一般に人間の協調作業を支援する技術はグループウェア (Groupware) と呼ばれる。Blogの持つ特性に注目すると、一般的なグループウェア・アプリケーションにはない興味深い利用方法が考えられる。そこでBlogをコラボレーションを支えるコミュニケーション

---

\* 城西大学女子短期大学部

ン・ツールとして利用することを考えた。

### 1. 2 Blog の機能と演習授業

Blogでは、個人の考えや論評等を書き加えた記事が時系列に配置されているWebサイトが多いが、厳密な定義はない。またBlogでは、他のBlogの特定内容へのリンクを設定する相互参照（トラックバック）が利用されている。その結果、WEB上のコミュニティ内での人気トピックスには、リンクが集中するメカニズムとなっている。近年、Blog を介する「ロコミ」情報を、マスメディアが後追いする現象も生じていて、新しいWEB上のメディアとなっている。

従来、情報技術を利用した協同作業による学習の効果的手法について検討してきた。その学習分野の一つに各人の共同作業によるグループ全体の業績（資料）作成という領域がある。そこでゼミ参加者各自の、独自テーマによる調査研究とクラス全体としての業績形成という授業方法にBlogを利用することに着目した。

## 2. Web グループウェアを活用した学習支援方法

### 2. 1 目的と方法

WWW技術の理解を伴う情報リテラシーの学習支援を目的とした。そのために情報文化学の基礎的理解と携帯電話の社会的な浸透状況を探求することをテーマとした。またクラス全体テーマを携帯電話の社会的浸透現象とし、各自の調査研究も統一テーマの下に統合できる内容とした。Web上の携帯電話でアクセスできるサイトを利用し、前期は主として情報文化学の概論を、休暇前の課題提示を経て、後期は各人の収集資料をまとめ、各人テーマの共通領域毎にグループを形成した。

### 2. 2 環境と準備

コンピュータ室を利用できる期間が限られたため、前期はBBSとwebmail、KJ法作業ホームページ作成等の指導を行った。後期はBLOGサイトの構築とトラックバックの実習という形で、操作指導に絞った。また携帯電話を利用したBBSサービスサイトは3種類から適当なものを選び適宜利用した。また同様に携帯電話から利用できるホームページ作成環境をサイト上に作り、データ交換領域を形成した。

ソフォモアセミナー授業の一つをとりあげ、年度内前期・夏期・後期として到達目標を示した。教授者は、あらかじめWeb上のBLOGサービスサイトを利用し、グループホームを準備しておく。メンバーリストに担当者アドレス番号と名前を登録する。前期では、各自のテーマ決定の参考にする情報文化関係論点の発表授業に続き、後期では研究テーマの調査成果をまとめる進度をとった。

## 3. 運 用

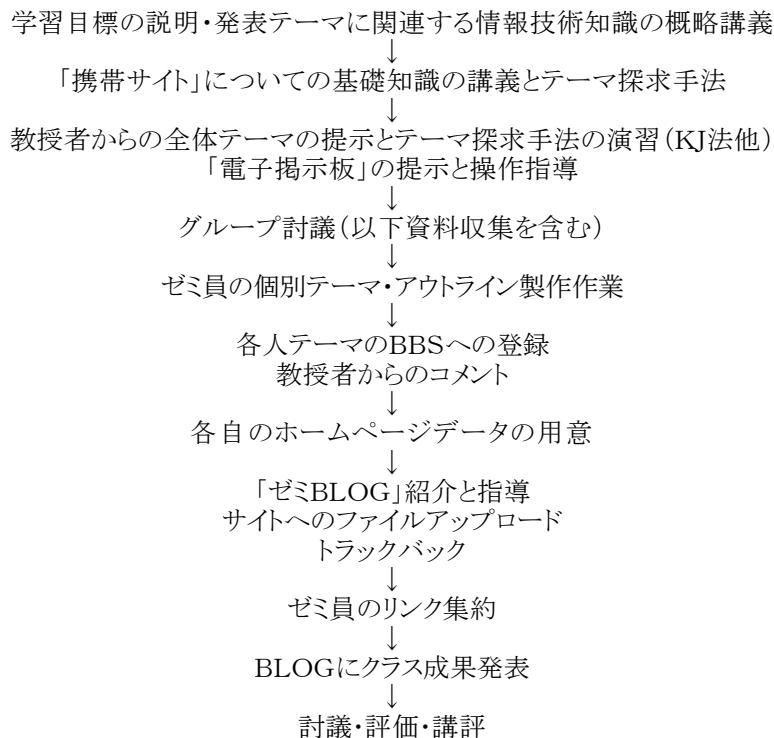
### 3. 1 準備

授業全体を次のような過程で構成した。通常授業ではコンピュータ室が利用できず、週1日1時限で課題を提示し質問・指導に応える体制をとった。グループホームページは携帯電話によりアクセスできるページと電子掲示板を用意した。各授業期間で一定の目標設定を行い運用した。他補講期間を利用し特殊作業を補うこととした。

### 3. 2 教授者と受講者

はじめに授業方針・学習論点を提示し、このとき専門用語等をテキストで確認する。進度はBBSおよび、グループホームによって作業進行を示す。各グループ構成員は、相互に作業データをやりとり確認後、最終集約データとし、ホームページに保存する。

図1 授業概観



### 4. 結果と検討

一応の進行を経た段階での中間評価を行った。

- ・教授者は、WWW知識の基礎能力と操作技術のばらつきの調整への配慮が必要となった。予想を超えて下準備（ページ更新や、指示登録など）に手間がかかった。
- ・授業進行過程をWEB上で確認でき、授業へのフィードバックが可能になった。
- ・やはり遅刻や出欠状況の影響があった。進度途中で集中指導期間を設けた。しかし習熟度のバ

ラツキへの影響は避けることができなかった。

- ・最終的にゼミ全体の BLOG が形成されたが、各人の進度のばらつきのため最終完成に遅れが生じた。
- ・今年度教室のプロジェクター教室では、画面での細部に至る操作説明に困難があった。プリント配布などに頼る結果となった。
- ・年度当初には操作技能に関する Blog の参考著書もなく、プリント配布や BBS への掲示等準備に負担となった。
- ・メール情報などセキュリティに若干の不安があった
- ・無料サービスの条件である、関連広告データに配慮が必要であった。

以下に、各種の Blog サイト画面を示す。

図 1 BLOG サイト（ホーム）の一部

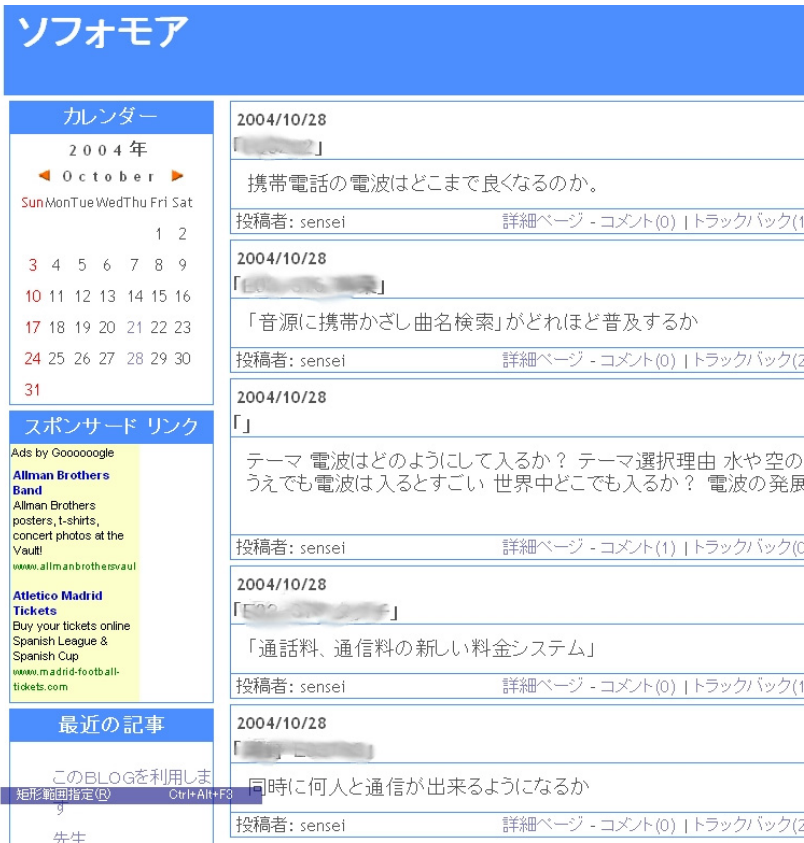
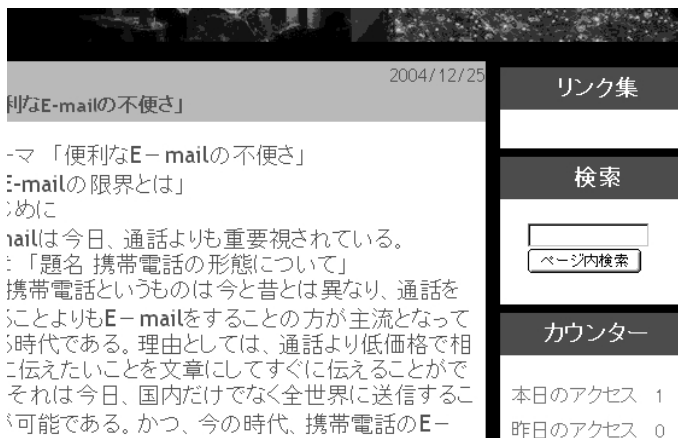


図 2 トラックバックの状況

(0)   トラックバック(6)
(0)   トラックバック(0)
(0)   トラックバック(1)
(0)   トラックバック(1)
(0)   トラックバック(1)
1   2   3   4   5

図 3 調査発表ページ（学生作品）



## おわりに

現在、なお情報環境の困難さをかかえながらも、いくつかのパターンで、ITを活用しながら適宜授業を進めている。今後も情報技術を利用した授業での協同作業という領域の教育と研究を発展させたい。また次年度の情報システムの更新を受け、今年度の教訓を活かし、新しい教育手法の開発と評価手法の探求を進めてゆきたい。

## 参考文献

- (1) 総務省編「情報通信白書〈平成 14 年版〉」ぎょうせい（2002 年）
- (2) 大島，堀本，岡本著「最新パソコン用語事典〈2004 - '05 年版〉」技術評論社（2003 年）
- (3) インターネット協会「インターネット白書 2002」インプレス（2002 年）他

(Received Mar 25, 2005)